**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第４６回　（２０１８年７月１０日）**

**・第４６回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」１９頁～２１頁**

**＜前回の復習＞**

**・神様のさまざまなムードを歌った賛歌**

**①トゥミ　プルスキーナーレはホーリー・マザーの歌**

前回の冒頭を説明した歌(トゥミ　プルスキーナーレ　アメブジェーテー　ナレー

シャヨンナブージャレ　タケブジー　テーパリー）は、ホーリー・マザーの歌でした。

　　　　　　　　　　　　　　　（前回どなたの歌かは明言されていませんでした）

*ラグラールヴィーバージョ　ゴマー　レデカモーラーシャ　トゥマロボホノハーラー　ルクティアグバール　デケールエーマノーヨネー　トゥマロボホノハーラー　トゥマルブフンファラー　ルクティアグバール　デケールエーマノーヨネー　レディカモーラシャネー*

の中に

*トゥミ　プルスキーナーレ　アメブジェーテー　ナレー*

*シャヨンナブージャレ　タケブジー　テーパリー*

があります。

ドゥルガー・プージャのあとに、ドゥルガー女神の像は川に流されますね。ドゥルガーが見えなくなってさみしくなった時の歌です。

ホーリー・マザー、心の中に現れてください。

*ラグラールデラジョーゴマーヘディカモー*

デラジョマ（存在します）ヘディ(心)

カマロアーシャネ（蓮華の座布団）

心の中に蓮華の座布団がありますから、それに座ってください。

*アクバール*

アクバール（一回）

*ヘラジョーゴマー　ヘディカモーラーシャーネー*

*ホマルゴマールハダー*

ゴマルハダ（とっても美しい）、

皆さん宇宙の一番美しい、

*トゥマルブバンファラー　ルクルティアルバール　デケーロエーマナーヨネー*

デケロエマナ（目で見ます）

レディカモーラシャネー　ラグラールデラジョーコーマー

**②マザー・カーリーのさまざまな姿を歌った歌　『シャマ　マーキ　アマーカロー』**

変幻自在さを歌ったマザー・カーリーの別の歌は、

『シャマ　マーキ　アマーカロー』

ココノ　ピト　ココノ　ニルーロヒト　レ　♫

あなたはときどき青い、ときどき赤い　　♫

というのがあります。　　☞(『DIVYA GITI』vol.2 track12』)

**③タクールの変幻自在さを歌った歌**

また、タクールの別の歌もあります。

*ナヨナヘーラモー　ナヨナヘラー　エシュラーモ　クリショナモー　ナヨナヘラー*　♫

ナヨナ(目)、ヘラーム(とても美しい)，ナヨナヘラー

目でとても美しいものを見ている、そのような目

*ナヨナヘラー　イシュジャヘラー　ドゥラーレトゥミ　ロクポティラーモ*

*ドッキネッショレタボリラキラモノハ　コブーシャマールポドロ　コブシャドーシャンカ　コブーシャーマ　♫*

あるときシャーマ、マザーカリー、あるときシヴァ

*シュラーカベハベコゴ*

ときどきシュリー・ラーダー

*コブカデアンタラ　フラエルタエアロ　コブカノロブシャ♫*

ラーダーのムードにいる時、あなたは、シュリー・クリシュナはどこと泣きながら♫

というとても美しい歌があります。

・**有限の存在の我々が無限の存在のシュリー・ラーマクリシュナの本性をすべて理解することは無理**

シュリー・ラーマクリシュナの本性を我々が理解することは無理です。シュリー・ラーマクリシュナ自身が我々に理解させてくれないと、無理です。なぜならシュリー・ラーマ神様は無限ですね。その無限である存在のラーマ神様と同じ存在であるシュリー・ラーマクリシュナのことを有限な私たちが理解することはできません。　とても偉大なアイン・シュタインですら、「永遠のほんの一部分だけを理解した」だけなのです。もちろん我々よりははるかに理解しているはずですが。

イエスキリストの弟子のアポストル（使徒）がイエスキリストのことすべてを理解できたでしょうか？

スワミージーは「私はこの生涯をとおしてシュリー・ラーマクリシュナを理解することに費やしてきましたが、できませんでした。ホーリー・マザーだけがシュリー・ラーマクリシュナが誰であるかということを理解していました」と言いました。

シュリー・ラーマクリシュナのことを本当に理解していたのはホーリー・マザーだけでした。もちろんスワミージーは他の信者に比べてずっとよく理解していましたが、すべてではありませんでした。

本当はシュリー・ラーマクリシュナがどなたかを理解させることは難しいですが、スワミージーは部分的に理解させようとしました。

・**シュリー・ラーマクリシュナに関する情報がたくさんある現代は、**

**包括的にシュリー・ラーマクリシュナのことを理解できる**

我々は、シュリー・ラーマクリシュナの体がなくなったずっと後に生まれましたね。そして今は、シュリー・ラーマクリシュナについて、ホーリー・マザー、スワミージー、ブラフマーナンダジ、などさまざまな方の印象を読むことができます。　シュリー・ラーマクリシュナの教えについて書かれた『ラーマクリシュナの福音』もありますし、師の生涯について書かれた『ラーマクリシュナの生涯』を読むこともできますね。

ですので、シュリー・ラーマクリシュナを包括的に理解している、という意味においては、我々は当時の直弟子の方々よりも理解しているかもしれません。なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナが生きている間はそれぞれが各自の見方でシュリー・ラーマクリシュナのことを見ていたので、他の方の見方を信じることができませんでしたから。

我々の理解は、確かに頭で理解しているだけかもしれませんが、たくさんの書物からシュリー・ラーマクリシュナのことを理解したことを、シュリー・ラーマクリシュナを瞑想すること活かすことができると思います。

**・すべての女性をマザー・カーリーと見ているときとそうでない時がある**

ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュのところの女優は、ほとんどが売春婦でしたが、彼女たちに触れられても彼女たちのことをマザー・カーリーと見なして、なんともないこともありましたね。

しかし、女性のお手伝いさんがシュリー・ラーマクリシュナに触れると、とても痛がって、ガンジス川の水を入れた大きな瓶から聖水をお手伝いさんに触れられた箇所に掛けたこともありました。お手伝いさんはとてもショックを受けたのを見て、彼女を慰め、シュリー・ラーマクリシュナは彼女に離れたところからあいさつをするように、言いました。たぶん以前の彼女の性格が良くなかったのだと思います。☞（『福音』１８５頁上段L６～下段L１３）

**＜今日の勉強＞**

・📖 （読む）「師と弟子」１９頁下段Ｌ９～１９頁下段Ⅼ１５

*彼らが師の部屋に戻る途中、シュリー・ラーマクリシュナはMにおっしゃった、「農夫たちは市場に農耕用の去勢牛を買いに行くと、牛の尻尾にさわってすぐにそのよしあしを見分けるのだよ。あるものは尻尾にさわられるとおとなしく地にすわる。彼らはそういうものは元気がないと見て買わない。尻尾にさわられるとはねまわって元気を見せるものだけを選ぶ。ナレーンドラは、このあとの種類の牛のようだ。活気に満ちている」*

*師はこう言って、微笑なさった。そしてつづけられた、「世間にはまったく度胸のない人がいるものだ。彼らはミルクに浸された押米のようなものだ―軟らかく、どろどろしている。内に力がない！」*

（解説）

ナレーンドラはfull spiritでした。

インドでは、お米でいろいろなものを作っています。

例えば「ムリ」はポン菓子のような感じのものです。日本のポン菓子は甘いですが、インドのムリは甘くありません。

タクールは生まれ故郷のカマルクプルで女性たちが米つき機械で押米を作るのを見ました。米つき機械では、足で、長い木を打ち下ろします。それで反対側の床の穴の中の米が押しつぶされるのです。穴の中のつぶされた米を取り出す人は、指が杵にあたってけがをしないように気を付けなければなりません。そして子供をあやしながら、さらにお客との交渉に応じるのです。　　　　　　☞（『福音』１１２３頁下段L１０～１６）

インドでは、昼食後にお客様が来た時に、お客様に食べていただくために、ときどき押米を作ります。そして、押米にミルク、ヨーグルト、マンゴー、バナナ、黒砂糖を入れておかゆのようなものを作ります。それがベンガル語でチュレルファラルといわれる食べ物です。ファラは（果物）という意味です。サンスクリット語では、チピタカと言います。チピタカが普通の言葉、チュレに変化しました。

**人から影響を受けやすくてだまされやすい芯の通っていない人（おかゆみたい）**

**⇔　　勇気があって意志の力が強い人 （ナレーンドラ）**

ミルクに浸された押米とは、おかゆのように柔らかいです。そのような感じの人のことを指しています。人から影響を受けやすくだまされやすい人、クラゲのように骨のない感じの人です。

そして、タクールは、ナレーンドラはそれとは反対のとても強くて勇気があって意志の力が強い人だと言っています。ナレーンドラのような性格の人がもし悪事を働くと、大悪党になる可能性もあります。しかしその性格の人を正しく導くと、偉大な人になります。

・📖 （読む）「師と弟子」２０頁上段Ｌ２～２０頁上段Ⅼ１７

*日暮れだった。師は神を瞑想しておられた。彼はMにおっしゃった、「行ってナレーンドラと話をせよ。それから彼をどう思うか、きかせておくれ」*

*諸聖堂のアラーティは終った。Mはガンガーの岸でナレーンドラに会い、二人は話をはじめた。ナレーンドラはMに、自分が大学で勉強中であること、ブラーフモー・サマージの会員であることなどを話した。*

*も深まり、もうMの帰らなければならないときであったが、彼は帰りたくなかった。かわりにシュリー・ラーマクリシュナを探しに行った。彼は師の歌に魅了されており、もう少しききたいと思ったのだ。ついに彼は、師がカーリー聖堂の前のナートマンディル\*の中を一人、行きつ戻りつしておられるのを見た。聖堂の中では、母なる神の御像のどちら側かにランプが一つ燃えていた。ひろびろとしたナートマンディルの中のたった一つのランプは、闇と光で一種の神秘的な薄明かりをつくり、その中に師の御姿がぼんやりと見えていた。*

（解説）

とても素晴らしい描写です。まるでMさんは言葉で絵を描いているようです。この秀でた描写力は、『福音』の特徴のひとつです。

・📖 （読む）「師と弟子」２０頁上段Ｌ１８～２０頁下段Ⅼ７

*Mは師の甘美な歌に魅了されていた。少しためらいながら、今晩もっとおうたいになるかどうかおたずねした。　シュリー・ラーマクリシュナはちょっと考えてから、「いや、今夜はもううたわない」とおっしゃった。それから何かを思い出したように、付け加えられた、「だが、私は間もなくカルカッタのバララーム・ボシュの家に行く。あそこにおいで。そうすれば私の歌が聴ける」Mは承知した。*

*師「お前、バララーム・ボシュを知っているか」*

*M[「いいえ、存じません」*

*師「彼はボスパラに住んでいる」*

*M「では分かると存じます」*

*シュリー・ラーマクリシュナはMとともに広間を行きつ戻りつしながら、彼におっしゃった、「ちょっと、ききたいことがある。私のことをどう思うか」*

（解説）

**シュリー・ラーマクリシュナの武器は「美しい笑顔」**

シュリー・ラーマクリシュナはいろいろな方法で人を惹きつけました。

　歌

　踊り

　面白い話、

　食べさせる

　子供のようなふるまい

　ジョーク

　美しい笑顔

美しい笑顔については、いろいろな方の証言や記録が残っています。タクールの武器は「美しい笑顔」です。

ラーマの武器は「弓」、シュリー・クリシュナの武器は「チャクラ」ですが、シュリー・ラーマクリシュナにはそのような武器はありませんが、悪い人もシュリー・ラーマクリシュナの「美しい笑顔」という武器によって変化します。罰もありませんし、殺されることもありません。ラーマやシュリー・クリシュナと比べてどちらが偉大でしょう？　冗談ですが。

イエスキリストは、愛と慈悲の方でした。彼の慈悲に関する素晴らしい話はたくさん残っています。しかし、シュリー・ラーマクリシュナほどの記録が残っていませんね。イエスキリストもきっと「美しい笑顔」をしていたと想像しますが、詳しい記述がないのが残念です。

・📖 （読む）「師と弟子」２０頁下段Ｌ８～２０頁下段Ⅼ１０

*Mは黙っていた。ふたたびシュリー・ラーマクリシュナはおたずねになった、「私をどう思うかね。アナ\*にしていくらくらい神の知識を、私は持っているのだろうか」*

（解説）

1アナはインドの少額貨幣で、１アナは１６分の1ルピーです。そして１アナの４分の１が１パイスです。つまり、６４パイスで１ルピーです。

今はインドでもお金はすべて１０進法ですが、昔は違いました。

**シュリー・ラーマクリシュナは自分の状態を信者にたずねる**

**（１）信者の性格を深く理解するため**

**①自分の心でその人の状態をチェックしました。**

タクールは信者の心がわかりました。

**②信者の肉体的な特徴から性格を観察する**

肉体的な特徴からもその方の性格を観察しました。

　　手の重さ

　　目

　　顔の形

　　歩き方

などからその信者の性格を推し量りました。

そして、**①、②の結果を合わせて、結論を下していました**。どちらの結論も一致すれば「OK、○○さんはこういう性格です」という感じです。

**（２）信者自身が自分の変化に気づくため**

信者はシュリー・ラーマクリシュナの状態をたずねられたとき、

「あなたは聖者です」、「あなたは素晴らしい方です」、「あなたは神の化身です」などと答えます。

それから月日がたって、信者がだんだんと変化した後に、シュリー・ラーマクリシュナへの理解も変化します。その変化に信者自身が気づくために、シュリー・ラーマクリシュナは自分の状態を信者にたずねました。

**（３）信者がシュリー・ラーマクリシュナに対する考えを心の中で整理できるように**

信者はシュリー・ラーマクリシュナの状態をたずねられると、心の中の印象を言葉で表現できる形に置き換えて、口にする。心の中にさまざまな考えがありますが、それを整理しないといけない。それも大事です。

今、（１）（２）（３）と、３つの理由をあげましたが、シュリー・ラーマクリシュナが信者に、**シュリー・ラーマクリシュナの状態をたずねた本当の理由はわかりません**。**なぜならシュリー・ラーマクリシュナの心はとても深いですから、我々がすべてを理解することはできないです**。

**・シュリー・ラーマクリシュナのことを深く理解していた信者の例**

**①　「あなたはシヴァです」と答えたボイクンナント・サンニャルの例**

あるときシュリー・ラーマクリシュナは、ボイクンナント・サンニャルに「私がどのように見えますか」と、印象をたずねました。

ボイクンナント・サンニャル：「あなたは本当のシヴァです」

シュリー・ラーマクリシュナ：「なぜそう思うのだね？」

ボイクンナント・サンニャル：「なぜなら、私はシヴァが大好きでいつもシヴァをいつも瞑想していました。しかしあなたを見た後、シヴァを瞑想できなくなったのです。シヴァを瞑想しようとすると、あなたが現れるのですよ。だから私はあなたがシヴァだと思うのです」

シュリー・ラーマクリシュナ：「それはとてもうれしいです。あなたの霊的な生活について、何も心配することはありません。なぜなら、あなたは私が誰かということを、よく理解していますから」

**・神様そのものの現れと、化身とは違う**

みなさん、神様と神様の化身は違います。神様の化身は、例えば９９％は神様の現れですが、あと１％は違います。　もっと少しだけの部分の現れのアヴァターもいます。

シヴァ自身の現れというは、とてもすごい存在ということですね。

**②　「あなたはサッチダーナンダです」と答えたプールナーの例**

プールナーという１６歳くらいのとても若い信者がいました。彼は、シュリー・ラーマクリシュナに「あなたはサッチダーナンダです」と言いました。それを聞いてシュリー・ラーマクリシュナはとてもびっくりしました。なぜなら１６歳の若者が心から信仰を持ってそのことを言ったからです。プールナーには前世からの良いサムスカーラがあったので、若くてもシュリー・ラーマクリシュナの本性が理解できました。

　　　　　　　　　　　　　☞（『ラーマクリシュナの生涯』上巻４１２頁L９～４１３頁L１６）

・📖 （読む）「師と弟子」２０頁下段Ｌ１１～２０頁下段Ⅼ１４

*M「『アナ』という言葉で何をしておられるのか、私にはよく分かりません。しかしこれだけは確かでございます。しかしこれだけは確かでございます。私はかつてこれほどの知識、神への深い愛、神への信仰、放棄、および包容性を他のどこででも見たことがございません」*

（解説）

Mさんはブラーフモー・サマージの会員でした。ブラーフモー・サマージでは形のある神様を認めていなかったので、ここではアヴァターラ（神の化身）について言っていません。もちろんMさんはヒンドゥ教徒でしたので神の化身について知っていましたけれど。

そのかわり、シュリー・ラーマクリシュナの特別な性格をとても詳しく、５つ述べています。

**（１）知識　ギャーナ　knowledge**

神様についての知識、例えば

・神様の本性

・神様と我々の関係

・神様はどのように宇宙を作ったか

・どのようにして神様を悟るか

・悟った結果どうなるか

・神様を悟るための障害は何か

などです。

**（２）神への深い愛　プレマ・バクティ　ecstatic love**

Mさんはシュリー・ラーマクリシュナの神様への状態は、プレマ・バクティと言っていますね。

**プレマ・バクティは「神様を愛し、いつもいつも神様のことを想っている状態」のことです**

バクティの英語はdevotionです。日本語で「神様への愛」と訳していますが、私はその翻訳は少し違うと思います。なぜなら信仰を持っている人の中には、神様のことを好き、神様を尊敬している、神様の儀式が好き、という状態の人はたくさんいますが、たまに神様のことを思い出しても、忘れていることも多いです。　自分の子供や夫を愛する人は、いつもその人のことを思い出しています。それほどの気持ちを神様に抱いていないと、神様への愛とは言いません。**愛までは進んでいない**ので、**devotionは「神様を尊敬している、神様を好き」と訳すべきだと思います。**

**・神様が敵でも愛することができる**

**シュリー・クリシュナのことが嫌いだったカンサの例**

ヒンドゥ教には面白い教えがあります。

シュリー・クリシュナのことが大嫌いだったカンサは、いつもシュリー・クリシュナのことを考えていました。寝ていてもシュリー・クリシュナが夢にまで出てくるほどでした。シュリー・クリシュナは神様です、神聖な存在です。ですので、たとえ「シュリー・クリシュナのことが嫌い」という理由でシュリー・クリシュナのことを思い出したとしても、それも礼拝になるのです。　カンサは神聖な存在であるシュリー・クリシュナのことをずっと考えていましたから、**自分の心の中の悪いものが、だんだんときれいになりました**。

みなさん、大好きな人か大嫌いな人、どちらかのことを考える、という経験がありませんか？

大好きなヒーローの映画を観て、その人のことを考えると、無意識で歩き方や笑い方まで影響が出ますね。

大嫌いな人に関しても、無意識でその影響を受けていると思います。

**・神様を恋人として愛するゴーピーの例**

シュリー・クリシュナがブリンダーヴァンにいたころ、いつも一緒に歌を歌ったりおどったりして遊んだゴーピーたちには、家族も夫もいましたが、シュリー・クリシュナのことを恋人のように愛しました。そしてゴーピーたちもシュリー・クリシュナの影響で**だんだん清らかになりました**。

**（３）神への信仰　ヴィシュワス　　faith in God**

我々には信仰がありますが、とても浅い信仰ではないですか？　あるときは信仰が出ますが、出ていない時もあります。浅くて安定していません。

しかし、**シュリー・ラーマクリシュナの信仰はとても深くて安定しています。**

いつもなんでもマザー・カーリーにお任せをしていました。

**・シュリー・ラーマクリシュナがマザー・カーリーにお任せしている例**

**（トター・プリーの例）**

遍歴のパラマハンサ、トター・プリーがドッキネッショルにやってきて、シュリー・ラーマクリシュナに「あなたはヴェーダーンタを勉強したいですか」とたずねました。

シュリー・ラーマクリシュナは「マザーに聞いてみます」と言って、マザー・カーリーの聖堂に聞きに行きました。（そのときトター・プリーは本当のお母さんのところに聞きに行くと思いました）

シュリー・ラーマクリシュナは「行って学がよい。あの僧がここに来たのは、お前を教えるためなのだよ」というマザーの声を聞きました。

そしてそのことをトター・プリーに伝えました

☞（『ラーマクリシュナの生涯』上巻３００頁L１１～３０１頁L１０

このようにシュリー・ラーマクリシュナはすべてのことをマザーにお任せしていました。それくらい深い信仰です。

**（４）放棄　ヴァイラーギヤ　renunciation**

シュリー・ラーマクリシュナは、心の放棄ではなく、体、神経などすべての姿、存在のレベルで放棄していました。お金には触れることさえできませんでした。

**・お金に本当に触れられないのかをテストしたスワミージーの例**

スワミージーは、シュリー・ラーマクリシュナが本当にお金に触れられないのかどうかを確かめるために、ベッドの下にお金を隠しました。シュリー・ラーマクリシュナはそのベッドには座ることもできないのを見て、スワミージーは自分がしたことにとても恥じ入りました。

**（５）包容性　ウダールバブ　catholicity**

Catholicity の意味は「包容力がある、心が広い、おおらか」です。

シュリー・ラーマクリシュナは、誰でも受け入れることが出来ました。

ブラーフモー・サマージの信者、ヴィシュヌの信者、マザー・シャクティの信者、どの信者がやってきても、その方たちのレベルで話をすることが出来ました。ですので、皆さんはシュリー・ラーマクリシュナが自分のグループの信者だと思ったほどです。

『福音』の中に面白い話があります。

　ある男が一つの桶を持っていた。人びとが布を染めてもらいにやって来た。桶には染料を溶かした液が入っていた。人が何色に染めてくれと頼んでも、彼は布をその桶に入れて、注文どおりの色に染めてやるのだった。ある人がびっくりして、『どうぞ私にその桶の中にある染料をください』と言った。　　　　☞（『福音』２６８頁L１３～L１７）

シュリー・ラーマクリシュナは、その染料の桶のようです。どんな色に染めることもできます。

シュリー・ラーマクリシュナによって、みなさんはそれぞれの道に沿って、より高く神様の愛の色に染められます。とても深い例です。シュリー・ラーマクリシュナはすべての人を教え、高める（enlighten）ことが出来ました。

・📖 （読む）「師と弟子」２０頁下段Ｌ１５～２１頁下段Ⅼ７

*師はお笑いになった。*

*Mは彼の前に低く頭を下げて別れを告げた。寺院の正門あたりまで来たとき突然何かを思い出し、まだナートマンディルにおいでのシュリー・ラーマクリシュナのところに戻った。かすかな光の中で師はたった一人で、に歓喜しつつ、広間を行きつ戻りつしておられた―が一人で森の中に住み、そこをするように。無言の驚嘆のうちに、Mはその偉大な魂を観察した。*

*師（Mに）「なんで帰って来たのか」*

*M「たぶん、あなたがこいとおっしゃったのは金持ちの家でございましょう。私を入れてくれないかもしれません。私は行かないほうがよいと思います。私はむしろ、ここであなたにお目にかかりとうございます」*

*師「おお、なぜそんなことを考えるのか。ただ、私の名を言いなさい。私に会いたいのだ、と言いなさい。誰かが私のところにつれてきてくれる」*

*Mはうなずき、師にあいさつをして帰った。*

（第４６回『福音』勉強会）　以上